



今日のトピック 豪金融政策は0.75%に据え置き、追加利下げ示唆

しばらくは様子見、豪ドルは底堅く推移しよう

ポイント1 政策金利0.75%に据え置き

- 豪州準備銀行（RBA）は、11月5日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を過去最低の0.75%に据え置きました。据え置きは市場予想通りでした。

ポイント2 雇用の伸びが減速する一方、失業率は下げ渋る見通し

- 声明文では労働市場について、労働需要の増加と供給増とが均衡しており、賃金の伸びは弱いまま、しばらく現行の水準で推移することが予想されると述べています。
- 豪州の7-9月期インフレ率は前年比1.7%でした。RBAは、インフレ率の上昇はわずかなものに留まり、2020年、2021年に2%に近づくとして、前回よりインフレ見通しを引き下げました。

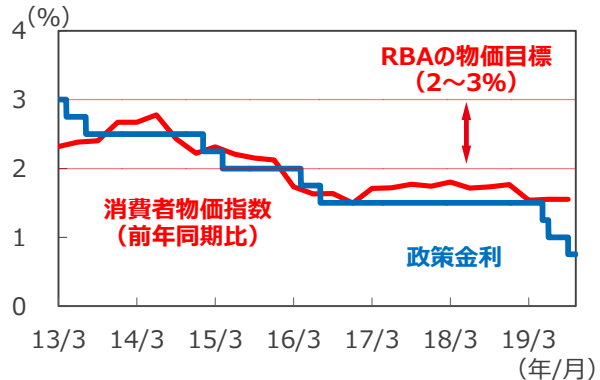
- また、完全雇用とインフレ目標の達成のため、長期にわたる低金利を予想するのが合理的であると指摘しています。

今後の展開

豪ドルは追加利下げ予想が重石も底堅い動きに

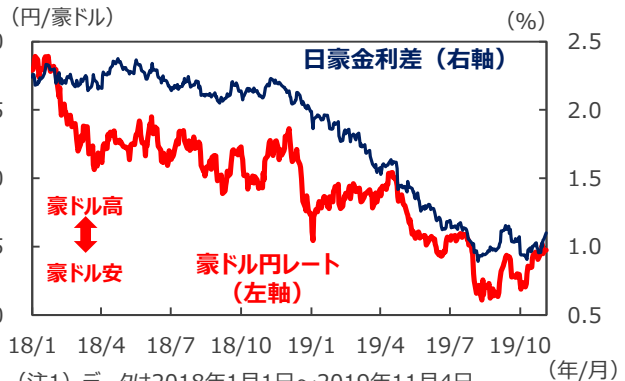
- 今後の金融政策について声明文では、必要であれば追加緩和を行う準備があると述べています。ただし、次の緩和までは一定の距離があると見られます。弊社では、RBAが今後とも成長率見通しに関し慎重になるとの想定のもと、来年、追加利下げを行うと予想しています。
- 豪ドルについては底堅い動きを予想します。米中通商協議は部分合意などで両者が歩み寄る姿勢を示しているなどリスク回避の要因が減少していることや、利下げや所得減税などの効果が見え始め、経済の持ち直しが期待されることが豪ドルを下支えしそうです。ただしRBAに対する利下げ観測は残っており、豪ドルの一方的な上昇は考えにくい状況です。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2019年7-9月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2013年3月31日～2019年11月5日。
(出所) Bloomberg L.P.、オーストラリア統計局のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2018年1月1日～2019年11月4日。
(注2) 金利差は豪州－日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも チェック!

2019年10月29日 オーストラリアマーケット動向

2019年10月 1日 豪州は0.25%利下げで過去最低金利を更新

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。